

鹿児島市コミュニティビジョン推進戦略会議第6回会議 会議概要

【開催日時】 平成24年10月19日(金)10時～12時

【場 所】 鹿児島市役所東別館9階特別中会議室

【出席者】

○委員：石田尾委員長、奥村委員、上池委員、北方委員、黒江委員、花倉委員、清水委員、飛松委員、永山委員、松田委員、持増委員、山崎委員

(欠席：久保委員、春山委員、山本委員)

○事務局：下村市民局長、圖師市民部長、平田地域振興課長、枝元地域振興課主幹 ほか

【会次第】

(1)開会

(2)協議

①第5回会議について

②モデル地域での取り組み状況について

③地域コミュニティ協議会と校区公民館運営審議会について

(3)その他

【会議の内容】(◎は委員長の発言、○は委員の発言、●は事務局等の発言)

(1)開会

(2)協議

委員長より開会あいさつ

①第5回会議概要について

第5回会議概要について事務局説明

◎委員長

・「参考資料」で加入状況を出している。これは、各町内会の加入率の上下を測るものではなく、それぞれの地域の持つ実態を確認するという趣旨の資料である。この加入率が高い低いで一人歩きをすると問題になるかもしれない。現状を把握するための資料であるということを確認し、取り扱いについての共通認識を持っていただきたい。

○委員

・23年から24年で、ほぼどこの地域でも加入率が上がっているが、行政では上がった理由を把握しているか。

●事務局

・特段これといった理由は把握していないが、加入促進緊急支援事業を活用し、町内会で、加入を呼び掛けるチラシやうちわを作ったり、戸別訪問して加入要請したりしているという声も聴く。そういった活動が効果をあげているということも考えられる。

・ただし市全体をみると、加入率は若干落ちている。これは、推計世帯数が増加していることが大きいと思っている。独居の方と一人住まいの人は違うのではないか。住民

登録上は一人住まいでもすぐ近くに身近な親族があり一緒に生活しているということもある。そういうところは両方の世帯も町内会に入ることではないだろう。

- ・実態はもう少し上がるのではないかと思うが、数字上こういったことになるということだ。

◎委員長

- ・平成16年が合併前、17年度が合併後である。合併をすると広域的な数値になる。少し変動が出ている。17年以降の動きを我々は注視していかないといけない。

○委員

- ・【資料1】の中に「地域コミュニティ協議会は町内会を中心に」と出てきており、町内会から負担金が出ているということだが、すでに発足した中名地域では、各町内会からの負担金は出ているのか。

●事務局

- ・設立にあたり、24年度の予算や事業計画を作成していただいているが、その中では市からの補助、校区公民館運営審議会からの拠出ということも予算の中に入っている。具体的な数字は手元にないが、そういったものも原資として活動しているという状況である。

◎委員長

- ・ほかに意見や質問等はありませんか。

○委員

- ・なし

◎委員長

- ・第5回会議概要についてはご確認いただいたということによろしいでしょうか。

○委員

- ・異議なし

②モデル地域における取り組み状況について

モデル地域における取り組み状況について事務局説明

◎委員長

- ・中名地域が先進地研修をしているが、研修後の感想を紹介してください。

●事務局

- ・研修に同行いたしました。中名地域の27名が参加をされ、大馬越地区をまず視察しました。薩摩川内市の公民館の分館が活動拠点になっていて、その横に加工所もあり、大馬越は地域の特色を生かしたコミュニティビジネスとして「シソジュース」を作っていた。その他にも「そば」なども活用している。
- ・また、各部会での役割や、役員がどういった形でイベントに関与していくのかということ意見交換をしていた。
- ・次は峰山地区に行った。川内川の下流にあり、校区自体は田んぼが広がる静かなところである。小学校や中学校の校歌にでてくる“山”があり、その山について校歌には出てくるが、地域の皆さんがその山がどこにあるか知らないということが発端で、そ

の山のところにボランティアで3ヘクタールくらいのコスモスの花を植えて、素晴らしい地域の自慢をつくっていらっしやった。

- ・また、その脇に40アールくらいのさつまいも畑を作って、すべてボランティアでしているが、その芋と校区の米麴で、焼酎を外注してつくって、5年間で1000万円ほど黒字が出ているということであった。みなさん目をいきいきとされて、いろんな質問をされていた。
- ・最初は「ばかもの」が始めたことだと思うが、皆さんが一緒になって活動することで広がっていったという話を聞いて、中名の皆さんも「きばらんないかん」ということを口々に言っておられた。
- ・具体的には、中名でも山を活用してはどうかという話や、以前から中名では昔は甘酒をつくっていたので、ぜひそういうものも、「中名の甘酒」ということで取り組んでみたいということで若い人からも出ていて、コミュニティビジネスについても将来を見据えた上で考えたほうが良いと話をされていた。
- ・これからコミュニティプランを作るうえで、将来どのような形に中名を持って行くかというのを描くうえで非常に貴重な体験をされたと感じたところである。

○委員

- ・3地域にモデル地域のお願いをして、中名地域は新聞等で公表された。運営委員会とか協議会を立ち上げて加入に対していろいろな話をされたと思うが、加入するにあたっての最大の課題は何があったのか。どの地域でもいろいろあったと思うが、一番の課題は何だったのか。

●事務局

- ・次の議題とも関連するが、現在教育委員会からの地域へのアプローチとして昭和48年から設置している校区公民館運営審議会がある。長い歴史の中で青少年育成、社会教育、成人・女性教育、地域の教育から発展して、地域のコミュニティも担当するような状況になってきているため、新たにコミュニティ協議会を設置する必要があるのかという声は伺った先々で出された意見、疑問であった。
- ・この試行的なモデル事業で進める中で、まずはソフト面の整備をどうしていくのか。校区公民館という建物を将来的にどう管理をしていくのかという話が出てきたところである。
- ・議題の3で、両者の違いなどについても説明させていただきたいと思う。

○委員

- ・3地区がモデルということでスタートしたが、ほかの地域の機運を盛り上げていくために、各地域で少なくとも各町内会長に集まってもらい、説明した中で、認識を深めてもらうことが先決ではないか。
- ・先日も私たちの地域の審議委員長連絡会という場で、「今さら、なぜ」という声が聞かれた。まだまだ認識が薄い。やはりそういった人の疑問などを少しずつ解いていかないと、なかなか機運を盛り上げていくことはできないのではないかと。
- ・各地域を回って順次計画で進めて説明していった方が、機運が盛り上がっていくのではないかという気がする。

●事務局

- ・皆様方にご理解いただくことが大切である。職員が出向き、出前トークとして、システムや活動の内容などの紹介を行っていききたい。
- ・来月の話だが、谷山支所管内においては、新聞報道をご覧になって、町内会長が集まるので、町内会長の考え方をぜひ聞いてほしいということで声がかかっている。そういった場所でも説明をしてまいりたいと考えている。

○委員

- ・町内会長が輪番制で1年交代になっている町内会をたくさん抱えている校区もある。1年交代なので、「今まで通りでいい」「なんで今さら」という声がある。
- ・そういった輪番制で行っているところにも認識を深めてもらうためには、説明の場を設けて行かないと、一定のモデル地域はできても、ついてこられない地域は、とん挫してしまう。その機運を上げてもらわないと市全体が上がって行かないのではないか。

○委員

- ・すでにモデル地区が具体的に設立総会を開催しているが、中名地域コミュニティ協議会の規約や収支予算書などの資料を出してもらったらよかったと思う。
- ・薩摩川内市については、平成16年に一市4町4村で合併している。16年10月12日の合併後、一つの約束事として、小学校区ごとにコミュニティ協議会をつくろうという話し合いがあり、協議会の設立に向けて各校区で会合が開かれてきた。
- ・大馬越地区は私の郷里でもあり、いち早く資料は地域振興課長に差し上げている。会費は1世帯900円で、そこに市の助成を加えて予算書ができている。

○委員

- ・鴨池地区が設立に向けた取り組みとなっているが、委員に鴨池の方がいるので経過を教えていただきたい。

○委員

- ・9月20日に第1回設立準備委員会を開催した。市からも説明をもらって、賛否両論ありながら進めてきた。八幡校区には、もともと八幡校区振興会というコミュニティ組織があるので、振興会とコミュニティ協議会の違いや、立ち上がった場合は振興会がどうなるのかということがあった。振興会がないほうが立ち上げしやすいと思った。
- ・現在、地域コミュニティ協議会と八幡校区振興会の組織は別ということで進んできている。組織は別にあるが活動は一緒ということで、意味はないのではないかと、一本化したほうがいいのかという意見や、町内会だけでなくいろいろな組織も加えていくのだという意見もある。
- ・10月3日に第2回準備委員会を開催し、振興会の団体と加入団体が入っているので、結局どう違うのかは分からなくなっているが、振興会は町内会の連合会、コミュニティ協議会は町内会だけでなく、様々な団体も加入するということが違いだという整理がされ、進んできている。
- ・問題は会費で、全て振興会からの負担金となっており、その他団体から入らないのかということがある。しかし、やってみながら考えていけなければならないと思っている。
- ・また、八幡振興会の専門部が、地域コミュニティ協議会の専門部になっており、振興

会の専門部の存在意義がなくなるのではないかという意見も出ている。

- ・振興会は振興会で別であるので、いろいろ出てくるとは思う。しかし、立ち上げに向けては進めてきている。加入団体は95団体を予定しているが、総会に委任状もなしで、来られなかった場合、参加団体として認めていいものかどうかがよく分からない。加入団体として上がっていても、あとで所属していませんよという話にならないか心配はある。

○委員

- ・資料2の運営等支援補助は2年間50万円を上限に助成と書いてあるが、年度途中で立ち上げた場合はどうなるのか。

●事務局

- ・運営等支援補助金は設立年度と翌年度の2年間行う。中名校区においては30万円、来年度は50万円を限度に交付をする予定である。

○委員

- ・地域コミュニティプランに基づく活動及び地域コミュニティ協議会の運営に係る経費に対して、上記と同様の支援を実施する予定と書いてあるが。これは予定か。確定か。

●事務局

- ・予算との関係もあるが、私どもとしては支援していきたいと考えている。これについては次の議題とも関係があるのでそちらで詳細に説明をしてまいりたい。

○委員

- ・できればこれをはっきりしてほしい。設立総会の際、予算を組むとき、来年度以降はもうありませんよと突然言われても、それなら設立しなくていいのではないかということにもかねない。市から平年だったら年間100万円の補助があるということで説明している。25年度のみで26年度はないということになると、どうかなというのがある。

○委員

- ・八幡校区に尋ねるが、95の加入団体があるということであったが、そこに説明する経緯というのはどういうことがあったのか。

○委員

- ・私は直接タッチしていないが、ただ、準備会の運営委員長などが文書で回し、こういうことをしますから加入してくださいということをお願いされたと思う。

○委員

- ・加入はOKという返事をもらったのか。

○委員

- ・組織の代表の方はOKということであると思う。

○委員

- ・組織が変わることによって、それぞれの組織の方々が一番にメリットを考えるだろう。

○委員

- ・八幡校区の場合はこれまでにあった、八幡校区振興会をとりまく組織がすべて入っているの、今とさほど変わらないと思う。

○委員

- ・八幡校区には八幡振興会という母体があり、その母体に関連してこういう組織が横からきた。だから組織づくりがうまくいく。振興会という母体があったからこそ、これは設立できたのではないか。

○委員

- ・設立はできるとおもう。後がどうなるかだ。名前が違うだけで、あとは一緒だったということにならないかと懸念される。
- ・加入団体でも、今度行事があるからよろしくおねがいしますという、普通の民間の会社や団体はなかなか難しいのかなと思う。呼び掛けて協力してもらえるところは、今までも協力してもらっている。
- ・今後さらに掘り起こしていかなければならないのだが、難しいところだと思う。競合するところなどもあるので。

○委員

- ・私も大馬越に研修で行ったことがある。この時に運営等の支援の対象経費で、備品を買うことに補助をしていた。それをするので活動が継続的に行うことができていた。グラウンドゴルフの道具や舞台を作るなど、いろいろなことがなされていた。
- ・今見る限りでは鹿児島市の補助にはそういうものが入っていないように見える。一つの何かをしていくのには、何かをするためには「もの」が必要になってくるのではないかと思う。
- ・運営のみだけでなく、別な間口として、建物の舞台を作るなどということにも支援する体制ができてくると、もと地域のコミュニティは盛んになっていく。
- ・活動をする場所がなかったりもする。学校の体育館を使えるかという、それはなかなか難しかったりする。
- ・そういうのも先々検討していただけたらと思う。
- ・もう一つは、これから地域コミュニティ協議会が目指していくものとしては、地域のある団体を総ざらいしていく、見直すということだろうと思う。そうしたときに、自分たちの地域にどんな団体があるのかということからいかなければならない。既存の組織は手一杯というのは皆さん話をされる。既存の組織をとっぴらった中で、みんなでもう一回考えていかなければいけない。
- ・基本的なところを行政としては投げかけていくということが大切だと思う。現実には自分たちがしっかりしているから大丈夫という感覚も多いと思うが、そういうところにも投げかけていくということも大切だと思う。核になるリーダーをつかむということと、行政がいかにアプローチしていくかということである。ぜひよろしく願いたい。

○委員

- ・非常に具体的に活動が進められていて結構なことだと思う。将来はモデル地区も増やし、コミュニティ協議会づくりへより活力を見出していかなければいけないが、多くの町内会長には考える点が多いということがあるようだ。
- ・不安を取り除くための一環として、市民フォーラム、協働のまちづくりの市民フォーラムを何回か設定して開いて、多くの方々に問題点を投げかけていって、協議会と結び付けていくということも考えていったらいいと思う。

- ・中央・上町まちづくりワークショップは10月11日に小林市に研修視察に行ってきた。2時間ほど時間をもらい「協働により九州1安心安全なまち」をスローガンにした活動を聞いてきた。今委員さんが議論されているように、もちろん町内会もPTAもあいご会も、民生委員児童委員協議会も民間会社も全て網羅したまちづくりをしている。
- ・平成19年3月から協働のまちをつくろうと提唱し、行政も市民も一体となって垣根を取り除いて、市民も立ち上がらないといけないということで、市民フォーラムを平成19年から24年に3回ほど開いている。
- ・現在4万8千人の人口で、人口減少時代ではあるが、人の集まるまちにしようということで、30年後も4万8千人の人口でありたいというのが願いだっただ。非常に具体的な活動をしているので、今後の研修先として、人口の少ない町ではあるが、よいのではないか。小林市は30年後を見据えて、現在の人口を維持するというので、具体的にそれぞれの町内会等に浸透しているということであった。

◎委員長

- ・小林市の職員研修をしたことがある。午前・午後と研修があったが、副市長は午前も午後も出席したので非常に驚いた。また、鹿児島をよく研究している。県境のまちということで、先取りをするという姿勢を持っているという印象がある。
- ・30年という期間が出てきたが、まちが成長するのは普通20年である。30年というのはプラス10年読んでいる。その戦略がまた我々の勉強のテーマにもなってくると思う。
- ・非常にいい視察先のご意見をいただいたと思う。

③地域コミュニティ協議会と校区公民館運営審議会について

地域コミュニティ協議会と校区公民館運営審議会について事務局説明

○委員

- ・両者の違いを詳しく説明をしていただいたが、地域コミュニティ協議会と校区公民館運営審議会と比べてくと、校区公民館運営審議会のほうが格段上だという思いがある。ただ、支援体制がコミュニティ協議会はいいなと思う。あとは、校区公民館運営審議会は、長い歴史があり、最初の設立の時と違って、各種団体の連携も十分されているし、各種団体の相互補完もされているし、いろんなことが現在なされている審議会が多いと思う。
- ・もっと地域コミュニティ協議会も十分PRを審議会の委員とか町内会長などにしていけないと、改めて地域コミュニティ協議会を作ってもそんなに大差ないという感じがしないでもないと思った。市内には801町内会があつて、それぞれに町内会長がいらっしゃる。全体を集めて説明するというのは難しいかもしれないが、校区公民館運営審議会においても、話題になることもないし、自分の住む地域の町内会長連絡会でも話を出すか、それはいいかということになる。コミュニティビジョンをモデルの3地域はどんどん進めていると思うが、ほかの地域は後回しにされるような気がして、それでも10年後は全市に広めていくのでいいかもしれないが、どうなのかなと思っ

たところだ。

○委員

- ・コミュニティ協議会が設立されると、コミュニティセンターが事務局として必要ではないか。その場合は校区公民館をイコールと考えていいのか。

●事務局

- ・拠点施設は校区公民館を使っていたきたいと考えている。

○委員

- ・生涯学習課長も今日は出席しているが、学校支援ボランティアも校区公民館にいらっしゃる。私の校区ではPTAも使っている。やっとPTAに席を譲っていただいたような形で、今度またコミュニティ協議会ができてその方が、常駐となると、お互い譲り合っというということもあると思うが。
- ・人口比もあるかもしれないが、吉野はとても人口が多い。そういう中で校区公民館運営審議会もまかないきれない部分もある。地域コミュニティ協議会は望まれるものではあるが、事務局職員の場所やセンターをどこか借りられるということであればやっしていけるかもしれないが。

○委員

- ・地域まちづくりワークショップもあって、鴨池地域では9校区が1つになって活動をしている。一方で、9校区で活動し、一方で校区ごとに活動するという形で、ごっちゃになるなというイメージがある。
- ・今校区公民館運営審議会はすでに地域コミュニティ協議会の役割をしている。みなさんに納得していただくにはどうすればいいのかよく考えなければならない。こちらはどうなる、あちらはどうなるという説明が難しいなと思う。

○委員

- ・地域コミュニティ協議会が立ち上がれば、校区公民館運営審議会は廃止されるということを知っている。それはどうなるのか。

●事務局

- ・遠い将来を考えた場合は、校区公民館は、地域コミュニティ協議会に入っていくということになる。組織自体を完全にとっばらってしまうと、要綱や規則上のものをすべて廃止してしまうとなると、それは教育委員会からのこれまでの青少年の健全育成とかというアプローチができなくなってしまうので、そういう意味では廃止ということにはならないということである。

○委員

- ・実質ないということではないのか。

●事務局

- ・実質ないということであると、教育委員会からのアプローチの受け皿はがなくなることになる。

○委員

- ・それはコミュニティ協議会が引き継げばいいということではないのか。

●事務局

- ・そうしていただければ、委嘱状はないということである。その時点で運営審議会の委員

はいらっしゃらなくなるということである。

○委員

・組織自体は残るのか。

●事務局

・組織自体はそのコミュニティ協議会の中で青少年健全育成をどの部門が担当していくのか、その中でどういう形で活動をしていくのかということを協議をしていただくことになる。

○委員

・校区公民館がコミュニティ協議会として新たに立ち上げていくということになるのか。

●事務局

・校区公民館運営審議会は教育委員会が昭和48年、小学校区をエリアとして委嘱を差し上げて活動してください、年6回会議をしてくださいということがあります。それについては遠い将来は徐々にエリアごとに委嘱を差し上げないということになるが、それに代わってコミュニティ協議会を立ち上げて行くので、その場合はこれまでより広いエリアの方々に参集していただき、地域課題を解決していただく、その中には地域の子供たちをどのようにしていくのかというのがもちろんあるので、これは部会の中で協議をしていただくということである。

・モデル地域では25年4月から、委嘱は解きたいと考えている。委員はコミュニティ協議会の中で選任されれば、委員としての活動をしていただくことになる。報酬の部分はなくなる。その地域においてはこれまで委嘱をしている委員はいなくなるということになる。

○委員

・その部会の中については分かるが、審議会という組織が残るのか残らないのかということだ。

○委員

・名称は残らないということではないのか。

●事務局

・コミュニティ協議会を設立していただいた地域においてはなくなる。全体的に設立が進んでいくと、将来的にはなくなっていくということである。

○委員

・校区公民館の管理は教頭がしている。今はいちいち教頭のところに鍵を借りに行かないといけない。それが今後スムーズにいくのだろうか。

・校区公民館運営審議会には教頭がいたから、うまくいっていた。きちんとしていた。それがなくなれば、非常に頼りない。

●事務局

・そういったことを含めて、ビジョンの中に、公の力ももちろん結集されるが、地域の拠点としての施設も地域で運用していただくということになる。

○委員

・学校にも主管課の方から話をきちんとしていかないといけない。

●事務局

- ・今協議を進めているところである。モデル地域においては、24年度は同時並走をしている状態。25年4月には委員に対する委嘱を出さないの、実質モデル地域においては、校区公民館運営審議会の委員の皆さんはいらっしやらない。しかし、地域でそういう組織は先ほどから申しあげているが、そういう担当の方は置いていただいて、活動はしていただくということになる。

○委員

- ・公民館の運用は、現在は主事がいろいろな手配しているが、その主事もいなくなるということか。

●事務局

- ・今のシステムとしては、その代りに常駐の事務局職員への補助を行う。年中いてもらうには補助金が足りないの、そこは地域コミュニティ協議会でどう捻出していただくかは決めていただきたい。その事務局職員の方が鍵を預かるとか、利用の調整をされるとか、私どものイメージでは町内会の補助金の申請の手続きを手助けするとか、まとめて出せるものについてはまとめて出していただくとか、町内会の方々にとってもある程度の負担軽減になるのではないかと考えている。

○委員

- ・八幡の場合は校区公民館に事務局を置かず、振興会公民館に事務局を置くということになっている。そのあたりが微妙である。

●事務局

- ・そのあたりは地域性ということになる。これまでの校区公民館運営審議会は行政の方からこうしてくださいというアプローチをしていて、活動が「金太郎あめ」のようにされていると思う。しかし、コミュニティ協議会の場合は地域の実情がちがう。モデル地域3地域においてもそれぞれちがう。学校敷地内に公民館があるところ。喜入の場合は外にある。また、合併前後の過程でそれまで使えていたのにといい声も聞こえてくる。そういう地域性もあるのでそこは地域の中で十分共有していただきたい。
- ・行政の方からはフレームについてはご提案を申しあげるが、その中の運用の仕方などはモデル地区を運用させながら、問題点の解決に皆さんと一緒にあたっていきたいと思っている。

○委員

- ・運用は協議会でやるということか。

●事務局

- ・そうである。

○委員

- ・資料2の中にはコミュニティ協議会構成団体として、いろいろな団体があがっている。こうした団体、例えば校区社会福祉協議会、校区あいご会の会合には、説明に行っているのか。
- ・みんなが、校区公民館運営審議会は25年度にはなくなるということを事前に知っておかないと、いきなり言われても混乱する。

●事務局

- ・今、例に出されているのは校区公民館運営審議会であるが、これについてはモデル地

区では今後、こういう組織をつくりますという話をしているところだ。

- ・校区公民館運営審議会の委員長の会議、主事の会議があったときはそういった趣旨のお話はしている。教育委員会との詰めはしていきますよという中でコミュニティ協議会の設立に向けて皆さん方の状況も変わってきますという話をしている。具体的に話をさせていただいたのは今日のこの場が初めてである。モデル地区においてはずっと話をしている。

○委員

- ・モデル地区はいいが、今後どんどん広めて行くのだからその前に説明に行かないといけない。

●事務局

- ・25年度4月に一気に作るということではない。モデル地区の状況等も、今後、手を上げて作りたいというところについては、紹介をしながら、あるいはその運用がどういう状況であるということも確認をしていただきたいと思っている。
- ・全町内会800の町内会を集めてということもなかなか難しい、手を上げて、話を聞きたいというところには積極的に行って、今申し上げたような説明をしていくということになる。

○委員

- ・事務局が説明をした考え方が一番いいと思う。何をするにしても校区公民館運営審議会がこれをしている。例えばコミュニティ協議会、町内会連絡協議会というところがそういうことをしていないので、一斉清掃、防犯巡回活動にしても校区公民館運営審議会が音頭を取ってやっている。本来の仕事である自主学習グループの育成などはできていない。そのかわりに福祉館がやっている。
- ・本来の校区公民館運営審議会はこういうことをするんですよ、コミュニティ協議会はこういうことをするんですよということをはっきりして、コミュニティ協議会の中に校区公民館運営審議会という名称を使わず、社会学級部とか、そういうのをつくれば、福祉部とか防犯部とかすべての部門を網羅して、分けて作れる。校区公民館運営審議会もその中に入れる。
- ・また、コミュニティ協議会はそれぞれの町内会、地域で、地域の独自性がなくなるのではないと言われるが、町内会はあるので、それはそれで守って行けばいいと思う。
- ・いろいろな課題があるが、なかなか実践しない。そこで、地域コミュニティ協議会を作って、その地域全体の問題として取り上げて、そして一斉に動いていく。実情に合わせて、活動の取捨選択ができるので、ほんとうにいい組織だと思う。

○委員

- ・分かりやすく説いていくために、コミュニティ協議会の組織図の案を、例えば社会教育部会とか地域福祉部会とか青少年健全育成部会とか、婦人活動推進部会などという案を出したら分かりやすいのではないか。

○委員

- ・当初出していたイメージ図がある。それをもう一度出せばいいのではないか。

○委員長

- ・核心に触れてきたと思う。組織図が見える形というのは、理解できるということなの

で、具体的で実践的で、かつ価値観が共有できるということで、今の提案は大事だと思う。第1回、第2回でイメージ図が出ていたので皆さんお持ちだと思うが、事務局で作業を進めて行っている段階だと思うので、資料を提供できるようにしていただければ。

○委員

- ・同じことを考えていた。校区公民館運営審議会という名前を取ってしまうとすっきりすると思う。25年4月から審議会の委嘱はないということか。モデル地域以外もないということか。

●事務局

- ・モデル地域では委嘱をしないということである。モデル地域以外は現状のまま継続をしていただきたい。もちろん、コミュニティ協議会を設立しても、教育委員会は関わりをもっていく。

○委員

- ・社会教育の素晴らしいところへさらに発展していくと思う。そういう意味では受け皿、地域コミュニティ協議会の中に受け皿がないといけないということだと思う。

◎委員長

- ・今日は教育委員会からも出席があるので、一言お話をいただきたい。

●生涯学習課

- ・話をうかがって、校区公民館は本当にそれぞれの校区で大事な組織だということをつくづく感じているところである。地域振興課と協議をしているが、一番課題なのは校区公民館運営審議会がどうなるのかということである。
- ・今事務局がからあったように、組織としてはコミュニティ協議会に移って行くということになり、それぞれの部会を作っていくということになる。
- ・ただ、現状も校区によってそれぞれ違っていて、ある校区では校区公民館運営審議会のなかに部会もある。環境とか福祉も全部校区公民館運営審議会で行っているというところもある。そういうところは、そのまま地域コミュニティ協議会に移しても組織として使えるというところもある。それぞれ実態も違うので、きちんと私たちも検証していきたいと考えているし、地域振興課と協議していきたいと考えている。
- ・モデル地域でいろいろな課題も出てくると思うが、検証しながら、協議をして進めさせていきたいと思っている。
- ・よろしくお願ひしたいと思う。

○委員

- ・生涯学習課から説明があったが、活動補助11万円、社会学級講師謝金も引き継がれるのか。

●生涯学習課

- ・予算化は考えているが、モデルとなるところは考え方が別になる。社会学級はできるだけモデルになっても社会学級、青少年健全育成という視点で支援をさせていただきたいと思っている。
- ・生涯学習についてはモデルになる、ならないにかかわらず、生涯学習課として関わっていききたいと考えている。

○委員

- ・大龍校区の成人学級は、児童数も3百数十名で、成人学級への出席者が少ないが、各町内会単位に1月はどこ町内会、2月はどこ町内会というように、町内会の公民館を会場にして持ち回りで成人学級をやっている。そうすると、年間通じて参加する人、あるいは1月だけ参加する地域の人がいる。こういうことを試験的にやっている。校区公民館でやることも年に数回あるが、あとは全部町内会の公民館でやっている。そういう実態があるので、参考までにご報告しておく。

○委員

- ・とてもよい取り組みである。

◎委員長

- ・本来の機能を損なわない形で地域コミュニティ協議会を再編していくということと、既存の組織の利害関係を乗り越えて、新しい鹿児島市の発展に、地域コミュニティの再生をつなげていくかというのが、当戦略会議の一番の役割だと思う。
- ・そういう意味で、校区公民館運営審議会、皆さんが愛着を感じている組織であるが、その機能はそっくり新しい組織の中に移行できないわけではないと思う。全ての地域コミュニティと本来関わっているので。
- ・以前は校区公民館運営審議会の主事は大体、小学校の教頭先生だった。

○委員

- ・今は結構、民間主事に移行している。

◎委員長

- ・教頭と兼ねていた時代は大変な激務だった。そのため、来たら対応するという待ちの姿勢だったが、これからは、新しいニーズを吸い上げて行くという仕組み作りも、検討課題になって行くだろうと思う。
- ・コミュニティ協議会の発展ということで考えれば、良いところは引き継ぎながら、改善点は見出していくことが大切である。そのままでいいということはないと思うので、その辺からすり合わせをしていくことが大切だと思う。
- ・今日は教育委員会からも発言をもらったのでよかった。今後形になっていくということで重要な発言をいただいたと思う。
- ・そのほか全般的にいかがか。

○委員

- ・新聞報道で、中名の設立総会に54団体と個人70人が参加と見た。どこにも属さない個人70人ということはないと思うが、個人で参加するということか。

●事務局

- ・新聞報道では54団体であったと思う。登録証を交付する段階は52団体になった。
- ・2団体減ったのは、学校の校長先生が個人の立場で入れてあったが、そこを整理したものだ。
- ・個人70人というのは、総会に参加をしたということであったと思う。その組織を作るにあたって、賛同者の方、関係団体の代表者の方、総会で話を聞きたいという方が70人ということだったと思う。

○委員

・では個人ということではなく、52団体ということなのか。

●事務局

・そうである。ただ、個人的な立場で入られるということも、協議会が認めれば、可能である。

○委員

・一つ考えなければならないのは、コミュニティ協議会の中にNPOやまちづくり関係のグループ団体に入っていただきたい。それを要請してもいいのではないか。

・意識的なまちづくり、焦点を絞ったまちづくりをされているので新しいまちづくりの知識を得られると思う。

・また、他の委員が言ったが、町内会長が1年で交代する、誰もなり手がいない、高齢者が何年もやっているという状態があること自体が残念な話であるが、これをやはり、若い方々の育成ということで、講座をやはり、町内会長講習会などというのをやって、育成をする機会を設けたらよいと思う。

○委員

・そう簡単にはいかないと思う。1年交代のところは得てして、加入してもらうために、すみませんが1年交代でいいから会長になってくださいということになる。こういう地域で福祉などの説明があると、毎年最初から説明をしなければならない。なかなか難しい。

・そういうところをどう指導していくか。それも検討課題である。

・谷山地域においても、地域の絆、活動が活発なところがモデルになっている。棒踊り等にしても積極的に参加している。喜入も絆が強いところだ。全てのことについて積極的に参加してやっていく地区だとおもう。もう少し反省してやらなきゃいかんというところ多いのではないか。

○委員

・全ての校区でやっていこうとしている中で、資料をもらって地域の委員に配ってもよいか。それでも説明を受けるまで待った方がよいのか。来ていただいて説明してもらう時間を設定した方がよいのか。

●事務局

・要請をいただければ、どんどん出て行って、説明をさせていただく。要請がなければなにもしないということではなく、積極的に呼びかけていきたいと思う。

・モデル地域が1つでき、10月末に1つできる。遠からず3つ目もできる見込みである。モデル地域がなぜモデルかという、今日もあつたが、そこで発生するいろんな課題をまずはどうクリアしていくか考えて行く必要がある。拡大期は26年度以降と考えているが、手を上げたところに対してあと2年待ちなさいということは難しいだろう。どこかの時点で設立したいというところについては、モデル地域においても半年、1年地域での活動を積み上げてきているので、25年度については要請があるところに行ってはどんどん説明にいて、こういう組織であるからこういう準備をしてください、26年度の当初には設立できるようにしてくださいという形で進めていきたいと考えている。皆様方から地域にどんどん宣伝していただきたいと思っているので、どうぞよろしくお願ひしたい。

◎委員長

- ・やはり行政と一緒にあって取り組んでいるということを示すことが効果的だと思う。私たちが地域で話をした際に、細部の質問があったとき答えられない可能性がある。ぜひ最初のスタートラインについては一緒に協働の仕組みを披歴するほうがよい。
- ・情報の提供は必要性が高いと思っている。今回はモデル地域が24年度スタートしているが、25年度さらに経過を見て様々な地域から設立したいという声が出てくると思う。26年度はラッシュになってくるのではないかという感じもする。
- ・どうしても初年度は動きをみるという地域が多くて、そのうち課題も当然見えてきて、整理され改善されていくというものだと思う。最初の先発の地域づくりの協議会には課題があってしかるべきであって、これをどう乗り越えていくのかというのを我々も行政と一緒にあって、課題解決にどう取り組んでいくのかに知恵を出していければいいと思う。
- ・今日はコミュニティ協議会と校区公民館運営審議会の違いも一覧表で確認ができた。また、委員から出たが、もう少し啓発活動が必要ではないかと思う。フォーラムという形・機会があれば啓発につながっていくのではないか。われわれ推進戦略会議の委員も2年かけてここまできている。予算の都合もあると思うが、オールキャストが発言をできるような機会も検討していただければ。

○委員

- ・喜入、鴨池のどちらでもいいが、次の会議に来ていただいて、自分の地域の様子を説明していただくのもいいのではないか。

◎委員長

- ・事務局において検討してください。

●事務局

- ・分かりました。

(3)その他

特になし